

## 「広島県と広島市がコラボしての出展、 2024 台北国際食品展」

人事コンサルティング、日本企業の台湾新進出事前調査、台湾現地法人の設立、運営サポート業務等を中心としたサービスを提供。日本の良き隣人「台湾」に関することなら、築いてきた人脈と自身の経験値を基に懇切丁寧にサポート。



今月号では、「食」にまつわる一大展示会、フード台北(台北国際食品見本市)に参加された広島県と広島市の奮闘振り及び現在、台湾市場を賑わせている注目のスーパーマーケット、株式会社ロピアについて簡単にご紹介いたします。

### ＜2024 フード台北国際食品見本市＞

今年も6月26日から29日の4日間にわたり、第34回台北国際食品見本市が開催されました。展示会場では世界20か国のパビリオンも設置された国際的見本市です。食品加工機械、調理設備等の展示会場も併設されており、台湾内外から1,640にもものぼる企業・関係団体が出展し、4,357のブースが設けられました。主催側から公表された4日間の来場者数は47,812名とのこと。今回、広島からは海外展開に意欲的な企業様7社が出展されました。特に広島チームとして臨んだ安心食品商談会や会場内の特設ステージでのPRタイムでのパフォーマンスが評価され、最優秀賞を受賞する等、その奮闘振りが認められました。



### 【出展者の声(一部)】 - (広島県より提供)

- ・初めて海外の展示会に出展したが、手厚い支援のおかげでしっかりと商談ができた。
- ・現地に当社より安く製造するメーカーがあることもわかり、差別化が必要だとわかった。来て良かった。

### ＜輸入食品市場の競争激化＞

こうしたフード台北での商品PRの目的はやはりビジネスマッチングにいかにつなげられるかということに尽きると思います。ひと昔前の台湾ですと日本製食

品ということで他の類似商品より優位にあったことは否めません。ただし、現在では日本以外の諸外国からも様々な食料品が台湾市場を目指して集まってきます。日本から台湾に輸入されてくる食料品は大抵、ローカル商品よりも価格帯が幾分高めとなります。台湾では、高価格輸入食品を取り揃える高級スーパーマーケットを運営しても30店舗ぐらいが限界で、市場規模も限られているとの見方が業界関係者の通説です。台湾のスーパーマーケット最大手の全聯福利中心(PX Mart)社では1,165店舗、セブンイレブンやファミリーマートに代表されるコンビニエンスストア等の店舗数は13,706店舗とその圧倒的な店舗数を活かし、台湾消費者の市民生活には欠くことの出来ない存在になっています。そのため、こうした企業では日本商品にも台湾の一般消費者が日頃から接する商品、価格帯から大きくかけ離れていない商品を要求します。

### ＜株式会社ロピアの特徴＞

台湾でも2021年にドン・キホーテが1号店をオープンしたことは良く知られていますが、2023年に三井ららぼーと台中店内に1号店をオープンしたディスカウントスーパーの株式会社ロピアは、今までの台湾には無いスーパーマーケットとして各業界から新たな注目を集めています。特徴は、日本の総菜を前面に打ち出した「食」のテーマパーク型スーパーマーケットです。食品以外は取り扱わないことでも知られており、精肉業者としての専門技術に裏付けられた和牛商品の充実した商品構成は有名です。肉類以外にも握り寿司では台湾人の嗜好にあわせた鮭やエビを中心にボリューム感に溢れた商品で台湾の消費者を喜ばせています。その他にも自家製ピザ、ソーセージ、チーズケーキ、わらび餅、フルーツ等を目玉商品に営業されています。もちろん、基本はスーパーマーケットですので日本の調味料、飲料類、スナック菓子、カップ麺も取り揃えての営業です。今後、台湾の業者の中からこうしたスタイルを真似た業態が出て来るのかどうかも注目のポイントです。